

12月18日（月）朝礼 校長講話

弥富中学校には611人の子がいます。今日はその中のたった二人のこの話をしたいと思います。

先ほど、山端先生からも登校の時のあいさつの話がありましたが、先生も朝、学校の東にある交差点に立ってみんなの登校の様子を見ています。元気にあいさつをしてくれる子もすれば、ちょっとうつむきぎみに通り過ぎていく子もいます。先生は、交差点の北側に立っているんですが、道路を挟んで反対側の南側を通る子の中に、

「おはようございます！」

と道路の向こう側からあいさつをしてくれる子がいます。そのあいさつを聞くと、もうそれだけでとてもうれしい気持ちになります。

それがまず一人目の子の話です。そして、もう一人の子。それは、一人のおばあちゃんを泣かせてしまったという話です。

みんなもお手伝いをしたことがあるかもしれませんが、家の近所にごみを出すところがあると思います。曜日によって、今日は燃えるごみ、今日はプラスチックの日と決まっていますよね。その日は、「資源ごみ」の日でした。資源ごみの日は、空き缶やビンなどをさらに細かく分類するために水色の箱が用意されているのを知っていますか。ひとつがいっぱいになると、その積んである水色の箱から一つ取り出して、そこに入れているルールになっています。そこに一人のおばあちゃんが手に資源ごみを持ってみえました。しかし、両手がふさがっていたからか、その箱がうまく取れなかったか分かりませんが、そこに入れることができず困ってみえたそうです。困ってまわりを見渡していた時に、そこを通りがかったのが弥富中の子でした。その子は、おばあちゃんの様子を見てそこで立ち止まり、水色の箱を取り出し並べてくれ、その場を立ち去ったそうです。おばあちゃんは名前も聞くことができなかったけど、とてもうれしくて涙がこぼれてきたそうです。そして、そのことを近所の方に話され、その方が、先週の懇談会の中で担任の先生に「こんなことがあったんですよ」と話してくださったそうです。

そんな素敵な子がこの中にいます。誰かは分かりませんが、そんな子がいることをみなさんに伝えたくてお話をしました。